

# 改元にちなんだ商品続々

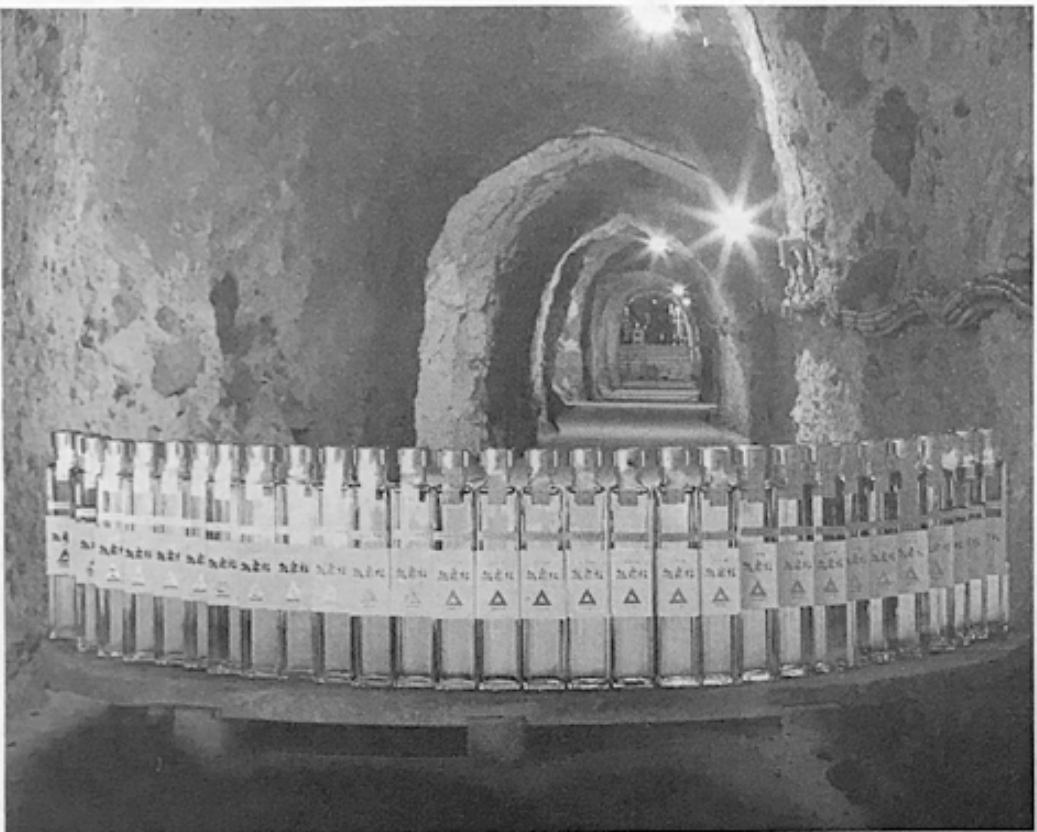
5月1日の改元を前に、県内の専門店が改元にちなんだ記念商品やサービスを売り出している。県内の経済界では消費拡大につながる期待の声も上がるが、10連休で営業日数が減ることとを懸念する見方も出ている。

山腹の軍需工場跡地で日本酒を熟成させる「洞窟酒蔵」で知られる那須烏山市の「島崎酒造」は、平成元々30年の大吟醸30本セット（各200ミリ、税抜き10万円）を限定50セット発売

した。平成元、10、20、30、31年の大吟醸5本セット（各200ミリ、税抜き1万5000円）も200セット用意した。平均10度の温度を維持して寝かせた古酒は、濃厚な味わいが楽しめるという。

宇都宮市の「カズサ写真館」では5月末まで、記念撮影に訪れた顧客に「令和」の額を持った写真のデパートも無料でプレゼントする。要予約（028・662・6960）。5月3日6日は原則休業だが、予約

島崎酒造が発売した平成元～30年の大吟醸30本セット（島崎酒造提供）



## 平成の大吟醸セット、令和のお茶やおしぼり…

次第で開店する。

また鹿沼市の日本茶専門店「神山園」は、「新しい時代に新しいお茶を」と静岡の新茶を組み合わせた「令和茶」（100ミリ、税抜き2000円、50ミリ同10000円）を発売。おしぼりの「三協」（さくら市）は、パッケージに「令和」と書いた紙おしぼり（900本入り税抜き6300円）を12月末まで限定で販売している。

帝国データバンク宇都宮支店が2月に県内336社を対象に行った意識調査（回答率36%）によると、

こうした経済活動を裏づけるように、7%が気持ちの高揚や個人消費の拡大、改元特需などでプラスの影響があると回答。ただ運輸・倉庫や小売りなどの業界を中心に、営業日数の減少や追加費用の発生、人手不足などのマイナスの影響を挙げた会社は倍の14%に上った。「プラス・マイナス両面の影響で差し引きゼロ」と答えた企業（26%）も含めると、半数近くが何らかの形で改元が影響すると認識していた。【林田七恵】